

古代の湖のほとりの草木

岩石名

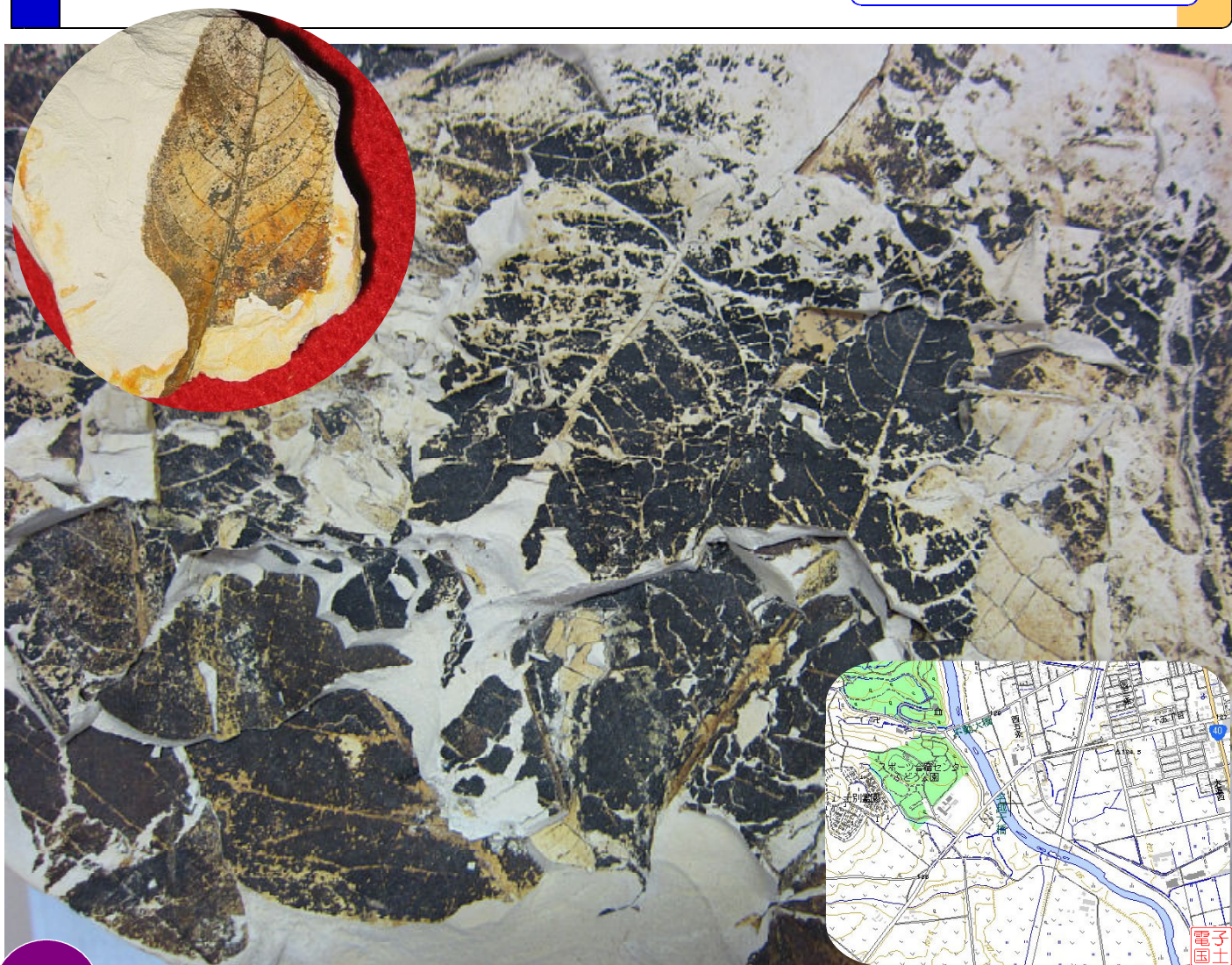
植物化石群集

Assemblages of fossil plant

時代 新生代新第三紀中新世

地質区分 美深層

産出地 士別市南士別



解説

古代の河川の地層



士別市南士別の名越大橋の下

南士別の河原で産出する植物化石について高校生が調べてみると、次のようなことがわかりました（士別高校の地学授業実践より）。

- ☐ 広葉樹の葉が最も多く、針葉樹が見あたらない。
- ☐ 化石は白っぽい泥岩中にある。
- ☐ 水辺に生える植物の茎も多い。
- ☐ 炭化した樹幹も発見された。
- ☐ 葉は他種類のものが折り重なっている。
- ☐ 周囲には凝灰岩層がある。
- ☐ 植物は現在見られるものとよく似ている。

これらのことから、次のような古環境が推定されました。

- ☐ この場所はかつての湖または川の氾濫原の三日月湖のようなところだった。
- ☐ 火山活動のあった時期の堆積物である。
- ☐ 気候は現在の士別よりもやや温暖であった。
- ☐ 湖の周囲には広葉樹の森林があった。
- ☐ 時代はそう古くなく、新生代のものである（実際は新第三紀中新世）。

調べてみよう

- 化石を探してみよう。この化石を採取したのは、名越大橋の下河原です。河川の水位が低いときに行くと、大きめの岩石がたくさん落ちていて、ハンマーなどで割ると中から葉や樹木が出てきます。